

佳作

ものほろびん

静岡県 静岡市立長田西中学校三年 鈴木 柊羽

「学校どうだった？」

これは、小学生の頃から、帰宅するとかかなりの確率で母から聞かれることだ。僕は、男子の中では、家で色々なことを話すほうだと思う。何か特別な事があった日はもちろん、何もなかった日でも思っていたことは一通りしゃべっている。

ある日、父に、

「今日はどうだった？」

と聞かれた。特に何もなかった日だったし、母と話した後なので、

「まあ普通だったよ。」

と答えた。

「それなら良かったじゃん。普通が一番。」と父に言われて、僕は「えっ!？」と思った。特にいい事がなかったから「普通」と言ったのに、良かったんだ……!?

いつも僕が勝てるわけでもないし、負けた誰かは悔しい思いをしているかもしれない。勝っても負けても、お互い様だと思えた。

僕は、基本的にネガティブ思考になりがちなので、家で色々なことを話すと気持ちが楽になることが多い。家族は、僕のことをよく分かってくれているので、いいアドバイスをもらうことが多い。「ものは考えよう」で、ネガティブ思考をポジティブにしてくれる。自分の考え方次第で良くも悪くもとれるなら、いいに越したことはない。普段のちょっとした考え方の転換で、気持ちが一掃した出来事だった。

父によると、いい事もなかったかもしれないけれど、悪い事もなかったなら、それは何よりだということだった。普段、つい「何かいい事ないかな」と思ってしまうことがある。そんなにいつもいい事ばかりあるわけがないのは分かっているが、いい事があった日は、やっぱりうれしい。

父に「普通が一番」と言われて、僕はうれしくなかった。いい事がなかった日は、少し残念な日くらいに思っていた。しかし、悪い事もなかったなら、それは良かったと思えるようになった。

別の日、母としゃべっていて、なるほどと思うことがあった。その日、クラスで委員会決めがあって、僕は希望していた専門委員になれなかった。一つの委員会に何人かが立候補した場合、だいたいジャンケンで決めることになる。今まで学校で何かを決める時、何度もジャンケンをやってきた。その時は、負けだった。その出来事を母に話すと、

「今日は負けて残念だったね。でも、ジャンケンで勝って、希望がかなう時もあるよね。そういう時、負けた子はきっと悔しい思いをしていると思うよ。」と言われて、ハッとされた。

自分のことしか考えていなかったが、僕がジャンケンで勝った時は、他の誰かが負けだ。逆もある。